

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：82401

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H05640

研究課題名（和文）革新的化学遺伝学による内在性代謝物の新機能の解明と応用

研究課題名（英文）Innovative chemical genetics on novel function of endogenous metabolites

研究代表者

吉田 稔 (Yoshida, Minoru)

国立研究開発法人理化学研究所・環境資源科学研究センター・グループディレクター

研究者番号：80191617

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 127,500,000円

研究成果の概要（和文）：多くの代謝物は、本来の代謝系での役割とは独立にタンパク質翻訳後修飾酵素の補因子や阻害剤として働くことで様々な生体機能を変換することがわかってきた。すなわち、ごくありふれた代謝物やその中間体が思わぬ活性を持ち、それらが周囲の環境変化によって量的変動し生命体の運命に大きく関わる可能性が現れてきたのである。そこで本研究では、分裂酵母と動物細胞を材料に、(1) エネルギー代謝、(2) 低酸素応答、(3) アミノ酸代謝、(4) 脂質代謝、(5) タンパク質アシル化、(6) RNA代謝のそれぞれについて代謝物の新機能を明らかにする研究を行い、多くの発見につながった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、解糖系酵素PFK1阻害によるミトコンドリア活性化の発見、脱アセチル化酵素SIRT2を阻害する内在性代謝物の発見、低酸素応答転写因子HIF-1を活性化する内在性代謝物の発見、分裂酵母の窒素源カタボライト抑制の制御に関わる細胞間コミュニケーション分子としてのシデロフォアの発見、セリン単一窒素源培地におけるイムノフィリンの重要性の発見、内在性奇数鎖脂肪酸による小胞体膜制御機構の発見、転写因子TEADにおけるN-アシル化の重要性の発見、翻訳されたイントロンによるタンパク質合成阻害作用の発見など、想像を遙かに超えた新規生理活性が明らかになり、新たな研究分野の創出につながると期待される。

研究成果の概要（英文）：Many metabolites have been found to transform various biological functions by acting as cofactors or inhibitors of protein post-translational modification enzymes independently of their original roles in the metabolic system. In other words, there is a possibility that common metabolites and their intermediates have unexpected activities, and that they may play a significant role in the fate of living organisms by fluctuating in quantity depending on changes in the surrounding environment. In this study, using fission yeast and animal cells, we investigated the novel functions of metabolites in (1) energy metabolism, (2) hypoxic response, (3) amino acid metabolism, (4) lipid metabolism, (5) protein acylation, and (6) RNA metabolism, which led to many discoveries.

研究分野：応用生物化学

キーワード：内在性代謝物 化学遺伝学 創薬標的分子 翻訳後修飾 代謝フェロモン

## 様式 C-19、F-19-1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

多くの代謝物は、本来の代謝系での役割とは独立にタンパク質翻訳後修飾酵素の補因子や阻害剤として働くことで転写因子、シグナル因子、エピジェネティクス因子、代謝酵素等の機能を変換することがわかってきた(図1)。すなわち、ごくありふれた代謝物やその中間体が思わぬ活性を持ち、それらが周囲の環境変化によって変動し、適応や恒常性変化を通じて生命体の運命に大きく関わる可能性が現れてきた。しかし、これまでに知られている代謝物による細胞機能制御の例は、たまたま明らかになったものが多く、それらはまだ氷山の一角に過ぎないと考えられる。近年、質量分析技術の進歩により、代謝物を網羅的に解析するメタボロームが容易になり、様々な代謝物の変動が理解できるようになってきた。しかし、個々の代謝物の固有の機能については、それぞれを単離して活性を測定する必要があり、そのほとんどが手つかずの状態であった。

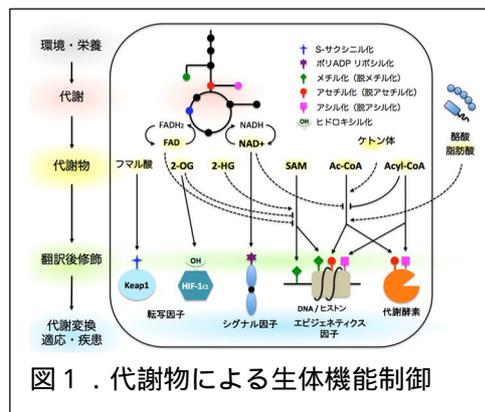


図1. 代謝物による生体機能制御

### 2. 研究の目的

そこで本研究では、分裂酵母または動物細胞を材料に、(1) エネルギー代謝、(2) 低酸素応答、(3) アミノ酸代謝、(4) 脂質代謝のそれぞれについて阻害剤スクリーニングまたは変異株スクリーニングを実施して得られた申請者独自の材料を使って代謝物の新機能発見に迫ることを目的とする。なお、本研究の進捗に従い、新たに (5) タンパク質アシル化および (6) RNA 代謝の化学遺伝学についても取り組んだ。以下に具体的な研究内容を記す。

### 3. 研究の方法

本研究では、通常分子生物学、細胞生物学、微生物学の手法に加え、化学遺伝学的なアプローチで代謝調節の本質に迫る。

#### (1) エネルギー代謝の化学遺伝学 (理研・東薬大)

・ Sirtuin による脱長鎖アシル化反応の解明と代謝物による活性変換機構の解析

SIRT2 と基質、阻害剤、反応産物およびその誘導体との相互作用は、蛍光偏光 (FP) 共結晶構造解析を用いて理研グループ (理研 G) が解析し、酵素活性評価および放射性  $NAD^+$  による反応追跡は東薬大 G が実施する。

・ ミトコンドリア好気呼吸を活性化させる化合物の作用機序解析

ミトコンドリア病患者由来細胞の呼吸能を活性化する TLAM の標的を明らかにするため、メタボローム解析、標的候補酵素の精製と阻害実験、標的候補酵素遺伝子のノックアウト等の実験は理研 G が行う。

#### (2) 低酸素応答の化学遺伝学 (理研・東大・東薬大)

酸素応答に関わると考えられるデオキシハイプシン水酸化酵素 (DOHH) の分裂酵母変異体は東大 G が作成し、その翻訳標的配列の決定は理研 G が行う。また、動物培養細胞における eIF5A ノックダウン、DOHH ノックダウンを用いた細胞解析と翻訳解析は理研 G が実施する。また、DOHH に加え低酸素応答司令塔転写因子 HIF-1 $\alpha$  の内在性活性化代謝物として同定した *N*-アシルドーパミンの機能解析は東薬大 G が行う。

#### (3) アミノ酸代謝の化学遺伝学 (理研・東大)

分裂酵母の窒素カタボライト抑制 (NCR) を制御する因子 NSF の受容・応答機構を解析するため、*leu1* 変異と約 3,400 の非必須遺伝子破壊を組み合わせた 2 重変異株ライブラリーを製作して応答に必要な遺伝子を探索する (理研 G)。一方、単独では最少培地で生育せず、野生株近傍で適応生育する変異株の探索は東大 G が実施する。

#### (4) 脂質代謝の化学遺伝学 (理研・東大)

奇数鎖長脂肪酸が特異的に分裂酵母の細胞分裂を抑制するメカニズムを明らかにするため、脂質成分、分裂制御因子等の顕微鏡観察および脂質メタボローム解析は東大 G が実施し、分裂酵母破壊株ライブラリーを用いたケミカルゲノミクス解析は理研 G が行う。

#### (5) タンパク質アシル化の化学遺伝学 (理研・東薬大)

東薬大 G は転写因子 TEAD のリジン残基が長鎖アシル化されることを見出した。その長鎖アシル化は転写共役因子 YAP との結合に重要であった。そこで、アシル化部位に作用し、TEAD と YAP の結合に影響を与える内在性代謝物の探索を理研 G と共同で実施する。

#### (6) RNA 代謝の化学遺伝学 (理研)

スプライシング調節薬 SSA がアミノ酸等の栄養豊富な条件で活性化する mTORC1 の細胞内活性を抑制することを見いだした。そこでその機序を解析するため、トランスクリプトーム

解析とリボソームプロファイリング解析を行ったところ、長鎖非コード RNA の 1 つ MALAT1 および一部の mRNA の小分子化(トランケート化)を見いだしたので、そのメカニズムをスプライシング因子の挙動に着目して理研 G が解析する。

#### 4. 研究成果

(1) エネルギー代謝の化学遺伝学  
 ・Sirtuin による脱長鎖アシル化反応の解明と代謝物による活性変換機構の解析

カロリー制限で活性化される SIRT2 は、脱アセチル化と脱長鎖アシル化の 2 つの活性を持つ。我々は SIRT2 に長鎖アシル化基質が近づくと、構造変化して長鎖アシル基のための疎水ポケットを作って脱アシル化反応を行うことを見いだした (Biochemistry 2015)。さらに脱アセチル化阻害剤として見いだした化合物は、脱長鎖アシル化酵素活性のためのポケットに入っていることが共結晶構造解析からわかった (Philos Trans R Soc Lond B Biol Sci, 2018) が、この阻害剤は脱アセチル化のみを阻害し、脱長鎖アシル化酵素活性は阻害できなかった。そこで、各種蛍光標識基質、蛍光標識阻害剤との結合を蛍光偏光および共結晶構造解析を行い、より強い結合性を有する長鎖アシル化基質が阻害剤をキックアウトすることを証明した。さらに SIRT2 のポケット内には反応産物 O-アシル-ADP リボース (OA-ADPr) が強固に結合し、脱アセチル化反応を阻害するが、阻害剤と同様、基質によりキックアウトされて脱長鎖アシル化反応進めることが示唆された。不安定で合成が出来ない OA-ADPr に代わり、アナログのアシルヒドラジド誘導体を合成してこれが脱アセチル化反応を阻害し、OA-ADPr と同じ構造で SIRT2 に結合することを示すことに成功した (図 2) (投稿準備中)。

・ミトコンドリア好気呼吸を活性化させる化合物の作用機序解析

先行研究で変異したミトコンドリアの機能を活性化する化合物 TLAM を同定したが、その機序を解明するため、TLAM の細胞内標的の同定を試みた。<sup>13</sup>C 標識したグルコースを用いたメタボローム解析、代謝フラックス解析から解糖系酵素 PFK1 が候補として浮上した。精製酵素による速度論的解析から TLAM は PFK1 に対して ATP 拮抗型の阻害剤であることが判明した。一方、PFK2 に対しては全く阻害作用を示さなかった。詳細な解析の結果、PFK1 の阻害により、まず、解糖系が減衰し、その結果 ATP/AMP 比が低下して AMPK が活性化することにより、脂肪酸酸化が亢進してミトコンドリアに呼吸基質が供給される。一方、PFK1 の阻害により代謝系はペントースリン酸経路に流れ、その結果 NADPH が生産される。NADPH は活性酸素種 (ROS) を消去するための還元力を提供するため、不良ミトコンドリアで ATP が生産される際に生ずる ROS を効率よく消去し、細胞を保護することがわかった (図 3) (Nat Chem Biol 2021)。この成果をもとに新規の PFK1 阻害剤、PFK1 を阻害する内在性代謝物の探索を実施中である。

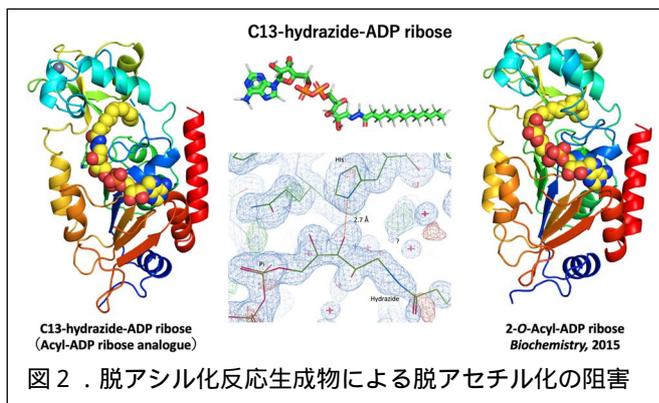


図 2. 脱アシル化反応生成物による脱アセチル化の阻害

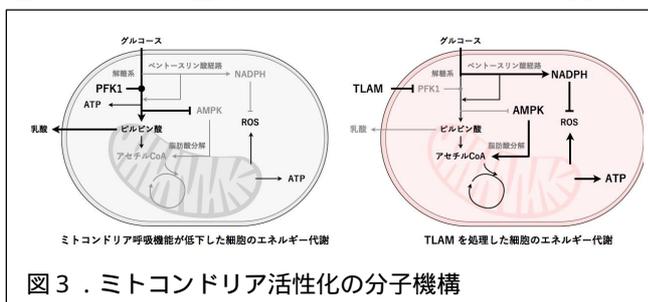


図 3. ミトコンドリア活性化の分子機構

#### (2) 低酸素応答の化学遺伝学

我々は先行研究により、翻訳因子 eIF5A の翻訳後修飾ハイブシン化が酸素濃度によって制御されている可能性を見いだした。しかし、どのようなタンパク質の翻訳に関わるかは未だ不明である。eIF5A は特定の配列の翻訳に必要であると推定されているが、実際にどのような配列の翻訳に機能しているかは議論が分かれている。我々はハイブシン化酵素の変異またはノックダウンによる翻訳の効果を見る目的で岩崎ら (理研) と共同してリボソームが mRNA 上で停滞している配列を特異的に検出する方法 (Disome profiling 法) を確立し、それを用いてまずは eIF5A ノックダウンの効果をも初めてゲノムワイドに観察することに成功した (Cell Rep 2020)。今後はこの方法でハイブシン化の機能を解析する。さらにハイブシン化阻害剤 GC7 を用いてハイブシン化の機能を解析するため、GC7 の作用を増強または減弱させる shRNA の網羅的探索を行い、ミトコンドリアの翻訳因子 MPV17L2 を同定した (論文投稿中)。

デオキシハイブシン水酸化酵素 (DOHH) や低酸素応答転写因子 HIF-1 $\alpha$  の水酸化酵素 (PHD) に対する内在性の阻害剤として同定した N-アシルドーパミンは、同じ酸素添加酵素ファミリーに属する DNA 脱メチル化酵素 TET やヒストン脱メチル化酵素 JHDM をも阻害し、エピジェネティック変化を引き起こすことを見出している。興味深いことに、この活性はがん代謝物 (オンコメ

タボライト)として知られる2-ヒドロキシグルタル酸(2-HG)と同様であった。RNA-seq解析の結果、*N*-アシルドーパミンにより発現変動する遺伝子は、2-HGを産生するイソクエン酸デヒドロゲナーゼ変異と同様な遺伝子発現パターンの変化であったことから、*N*-アシルドーパミンもオンコメタボライトである可能性が示唆された。これを証明するためには、がん細胞における生合成経路を明らかにし、生合成酵素の異常による内因性*N*-アシルドーパミン産生量の変化が、腫瘍の形成に影響を与えることを示す必要がある。まず、*N*-アシルドーパミンを産生するがん細胞を特定するため、安定同位体含有*N*-アシルドーパミンを内部標準とした質量分析による絶対定量法を構築し、*N*-アシルドーパミンを産生しているがん細胞U251を同定した。この細胞を用いてドーパミンアシル化酵素を探索した。ショウジョウバエにおいて、Gcn5-related *N*-acetyltransferase (GNAT) スーパーファミリーに属するAANATL2が、ドーパミンアシル化酵素活性を有することが報告されている。しかし、そのヒトホモログにはドーパミンに対するアシル化酵素活性はなかった。そこで、他のGNATについて検討したが、過剰発現によって細胞内の*N*-アシルドーパミン量を再現良く増加させる酵素はなかったことから、ヒトのドーパミンアシル化酵素はGNAT以外のアセチル基転移活性を有する酵素の中に存在する可能性が考えられた。そこで、脂質や低分子に対する様々なアセチル基転移酵素について検討したところ、リン脂質のアセチル基転移酵素として知られているPLAAT(ホスホリパーゼA/アシル基転移酵素)ファミリーメンバーの一つがドーパミンに対するアセチル化酵素活性を有することを見出した。今後、PLAAT依存的に産生される*N*-アシルドーパミンがオンコメタボライトとして機能することを明らかにしていきたい。

### (3) アミノ酸代謝の化学遺伝学

分裂酵母の窒素カタボライト抑制(NCR)を制御するフェロモン様因子NSFの受容・応答機構を解析するため、*leu1*変異と3,420の非必須遺伝子破壊を組み合わせた2重変異株ライブラリーを作製した。この中で114株はNSFにตอบสนองせず、ロイシンの取込みが回復しなかった。ロイシン飢餓で急速に生育能力を失う株を除いた77株の中からNSF受容体候補遺伝子、NSFシグナル伝達、ロイシン取込みトランスポーターのそれぞれの候補遺伝子が得られた。

また、通常アンモニアやグルタミン酸などの利用しやすいN源があるとNCRが起きるが、最も資化しにくいN源の一つであるメチオニンの存在がロイシンだけでなく、フェニルアラニン、アルギニン、リジンなどの要求性株においても強いNCR様現象を誘導し、NSFによって解除されることがわかった。この予想外の結果から、メチオニンは富栄養条件を伝えるシグナル分子として機能している可能性が示唆された。

さらに3,420の遺伝子破壊株を対象に完全培地と最少培地を用いて生育を比較し、最少培地において生育抑制が起きるが、野生株の近傍で生育が回復されるものを探索して32株を取得した。このうち31株はNSFにตอบสนองせず、野生株が分泌する新しいフェロモン様分子にตอบสนองしていると考えられる。その中の1つを単離・構造解析したところ、驚くべきことに鉄イオン取込みに関わるシデロフォア(Ferrichrome)であった(*Sci Rep* 2022)。このことは鉄代謝とアミノ酸代謝の間にクロストークがある可能性を示唆する。さらに代謝物を解析したところ、グルタチオンが野生株から分泌され、いくつかの遺伝子破壊株の増殖が回復することを見出した。遺伝学的な解析から多くの遺伝子破壊株はグルタチオンを硫黄源として利用することで増殖を回復していたが、一部の変異株はそれ以外の機能によって増殖回復を示す可能性が示唆された。グルタチオンを合成することができる分裂酵母にとって、細胞外からグルタチオンを取り込むことは増殖には必須ではない。本研究で取得された変異株のさらなる解析によって、グルタチオンを細胞間で共有することの意義の解明が期待される。

また、セリンを単一窒素源とした時、その生育にはFKBP12の機能が必須であり、FKBP12に結合してその機能を阻害するFK506等の一連のイムノフィリン阻害剤がセリン代謝を阻害することを見いだした(*iScience* 2022)。

### (4) 脂質代謝の化学遺伝学

C-15に代表される奇数鎖脂肪酸による分裂酵母の増殖阻害の分子メカニズムを明らかにするため、まず奇数鎖脂肪酸を処理した際の細胞形態を観察したところ、細胞分裂、核分裂が不均等になることを見出した。いくつかのタンパク質の局在を解析すると、細胞質分裂に必要な収縮環を形成する初期因子の一つであるMid1の局在が異常になっていた。またこのとき細胞膜ステロールの極性が失われており、C-15脂肪酸によって膜タンパク質の機能が変調されている可能性が示唆された。さらに形態観察を行ったところ、核膜と連続する小胞体の劇的な形態変化を見出した。すなわちC-15脂肪酸の処理によって細胞の長軸方向に細胞長の半分以上にわたる巨大なシート構造が出現した。小胞体は核膜や細胞膜と連続していること、また巨大なシート構造が細胞分裂を阻害する様子が観察されたことから、小胞体の形態異常がC-15脂肪酸の増殖阻害の原因であると考えられた。実際、分裂酵母のケミカルゲノミクス法によって感受性を規定する遺伝子のスクリーニングを行ったところ、細胞分裂に関与するMid2の欠損株が顕著な耐性化を示すことが明らかになり、この作用機序を支持した。分子メカニズムの解明を目的として脂質メタボローム解析を行ったところ、C-15脂肪酸がリン脂質に豊富に取り込まれていることが明らかとなった。リン脂質の代謝経路の上流部分は小胞体で起こる。そこで、C-15脂肪酸は小胞体でリン脂質に取り込まれ、C-15脂肪酸をアシル鎖として有する、相転移温度の高いリン脂質が産生され

ることで、小胞体の形態に異常が生じさせ、細胞増殖を阻害すると考えられる。細胞外から取り込まれた奇数鎖脂肪酸と細胞内で合成された偶数鎖脂肪酸がどのように区別されて認識されているのか、詳細の解明が次の課題である。

また、京大グループとの共同研究により、植物が病原性真菌を認識する膜成分としてセラミド代謝物を同定した (*Science* 2022)。

#### (5) タンパク質アシル化の化学遺伝学

前述のSIRT2は、長鎖アシル化リジン残基の脱アシル化を触媒する。このことは細胞内に内在性のリジンアシル化タンパク質が存在すること示唆する。我々はショットガン解析により、がん抑制経路であるHippo経路により制御される転写因子TEADのリジン残基が長鎖アシル化されることを見出した。機能解析の結果、リジン長鎖アシル化修飾は転写共役因子YAPとの結合に重要で、転写活性を制御することを明らかにした。そこで、独自に構築した602種類の代謝物から成る化合物ライブラリーおよび、理化学研究所が保有する天然物代謝物を中心とした約2万化合物から成る化合物ライブラリーからNanoBit法を用いて生細胞内でTEADとYAPの結合を阻害する代謝物を探索したところ、複数のヒット化合物を得ることに成功した。その中でも、植物アルカロイドであるエメチンの誘導体NPD689はYAP依存的なTEADの転写活性を抑制することにより、悪性胸膜中皮腫や肺癌細胞の増殖を抑制することを見出した (図4) (*Biosci Biotechnol Biochem* 2023)。

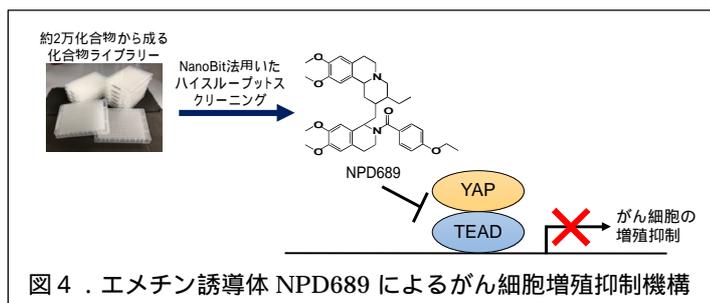


図4 . エメチン誘導体 NPD689 によるがん細胞増殖抑制機構

#### (6) RNA 代謝の化学遺伝学

スプライシング調節薬 Spliceostatin A (SSA) で処理した細胞では、イントロンを含む pre-mRNA が蓄積し、その一部が翻訳されてイントロンを含むタンパク質が生産されると考えられるが、その全体像は不明であった。そこでリボソームプロファイリング法で解析したところ、多くのイントロン由来アミノ酸配列をもつ短いタンパク質が作られ、それらが凝集体を形成してストレス応答を引き起こし、栄養代謝を制御する mTORC1 の細胞内活性を抑制するという予想外の知見を見出した (*Cell Chem Biol* 2022)。

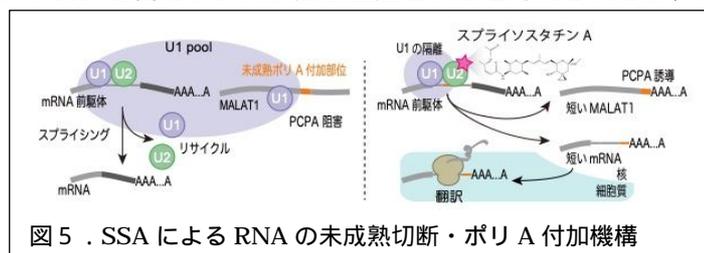


図5 . SSA による RNA の未成熟切断・ポリ A 付加機構

そこでその機序を解析するため、トランスクリプトーム解析を行ったところ、長鎖非コード RNA の 1 つ MALAT1 および一部の mRNA の小分子化 (トランケート化) を見出した。そのメカニズムを解析したところ、これらの短い RNA は、本来 U1 snRNP によって抑制されていた潜在的なポリ A 付加シグナルが活性化されて RNA が途中で切断され、ポリ A が付加されたものであることが明らかになった (図5) (*Cell Chem Biol* 2021)。

#### 当初に予見していなかった新たな展開等によって得られた研究成果

脂肪酸と脂肪酸誘導体の知られざる機能が次々と明らかになった。O-アシル-ADP リボースやアシルドーパミンのみならず、長鎖脂肪酸による転写因子のリジン残基のアシル化や奇数鎖長脂肪酸による小胞体膜の形態異常は、当初想定していなかった。また、イントロン配列の 5' 側は GC リッチであり、その部分が翻訳されると液相分離や凝集性を持つ配列が生じ、細胞内のシグナルを活性化することは予想外の発見であった。

本研究によって明らかになった新規活性代謝物やそれらの制御酵素の機能解析を進めることにより、今後代謝異常に起因する疾患の予防・治療、代謝経路の制御による新たな有用物質の生産など、広く応用が期待される代謝ケミカルバイオロジー分野を切り開くものと思われる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計53件（うち査読付論文 46件 / うち国際共著 14件 / うちオープンアクセス 32件）

1. 著者名 Sasaki K, Suzuki M, Sonoda T, Schneider-Poetsch T, Ito A, Takagi M, Fujishiro S, Sohtome Y, Dodo K, Umehara T, Aburatani H, Shin-ya K, Nakao Y, Sodeoka M, Yoshida M	4. 巻 29
2. 論文標題 Visualization of the dynamic interaction between nucleosomal histone H3K9 tri-methylation and HP1 chromodomain in living cells	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cell Chem. Biol.	6. 最初と最後の頁 1153-1161.e5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chembiol.2022.05.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kato Hiroaki, Nemoto Keiichiro, Shimizu Motoki, Abe Akira, Asai Shuta, Ishihama Nobuaki, Matsuoka Seiji, Daimon Takaaki, Ojika Makoto, Kawakita Kazuhito, Onai Kiyoshi, Shirasu Ken, Yoshida Minoru, Ishiura Masahiro, Takemoto Daigo, Takano Yoshitaka, Terauchi Ryohei	4. 巻 376
2. 論文標題 Recognition of pathogen-derived sphingolipids in Arabidopsis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Science	6. 最初と最後の頁 857-860
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/science.abn0650	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sato Hiroataka, Murakami Tomoyuki, Matsuura Ryosuke, Abe Masako, Matsuoka Seiji, Yashiroda Yoko, Yoshida Minoru, Akari Hirofumi, Nagasawa Yosuke, Takei Masami, Aida Yoko	4. 巻 14
2. 論文標題 A Novel Class of HIV-1 Inhibitors Targeting the Vpr-Induced G2-Arrest in Macrophages by New Yeast- and Cell-Based High-Throughput Screening	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Viruses	6. 最初と最後の頁 1321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/v14061321	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Raghu N. Dhital, Abhijit Sen, Hao Hu, Rikako Ishii, Takuma Sato, Yoko Yashiroda, Hiromi Kimura, Charles Boone, Minoru Yoshida, Yushi Futamura, Hiroyuki Hirano, Hiroyuki Osada, Daisuke Hashizume, Yasuhiro Uozumi, and Yoichi M.A. Yamada	4. 巻 -
2. 論文標題 Phenylboronic Ester-Activated Aryl Iodide-Selective Buchwald-Hartwig-Type Amination toward Bioactivity Assay	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ACS Omega	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acsomega.2c01092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nicole M. Revie, Kali R. Iyer, Michelle E. Maxson, Jiabao Zhang, Su Yan, Caroline M. Fernandes, Kirsten J. Meyer, Xuefei Chen, Iwona Skulska, Meea Fogal, Hiram Sanchez, Saif Hossain, Sheena Li, Yoko Yashiroda, Hiroyuki Hirano, Minoru Yoshida, Hiroyuki Osada, Charles Boone, ... Leah E. Cowen	4. 巻 13
2. 論文標題 Targeting fungal membrane homeostasis with imidazopyrazoindoles impairs azole resistance and biofilm formation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NATURE COMMUNICATIONS	6. 最初と最後の頁 3634
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-022-31308-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kosuke Hashimoto, Soichiro Ide, Mayumi Arata, Akiko Nakata, Akihiro Ito, Takashi K. Ito, Norio Kudo, Bangzhong Lin, Kazuto Nunomura, Keiko Tsuganezawa, Minoru Yoshida, Yasuo Nagaoka, Takaaki Sumiyoshi	4. 巻 13
2. 論文標題 Discovery of Benzylpiperazine Derivatives as CNS-Penetrant and Selective Histone Deacetylase 6 Inhibitors	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ACS Medicinal Chemistry Letters	6. 最初と最後の頁 1077-1082
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acsmchemlett.2c00081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jagat K. Chhipi-Shrestha, Minoru Yoshida, and Shintaro Iwasaki	4. 巻 3
2. 論文標題 Filter trapping protocol to detect aggregated proteins in human cell lines	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 STAR Protoc.	6. 最初と最後の頁 101571
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.xpro.2022.101571	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Ueoka, Philipp Sondermann, Stefan Leopold-Messer, Yizhou Liu, Rei Suo, Agneya Bhushan, Lida Vadakumchery, Ute Greczmiel, Yoko Yashiroda, Hiromi Kimura, Shinichi Nishimura, Yojiro Hoshikawa, Minoru Yoshida, Annette Oxenius, Shigeki Matsunaga, R Thomas Williamson, Erick M Carreira, Jorn Piel	4. 巻 14
2. 論文標題 Genome-based discovery and total synthesis of janustatins, potent cytotoxins from a plant-associated bacterium	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nature chemistry	6. 最初と最後の頁 1193-1201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41557-022-01020-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Po-Chang Chiu, Yuri Nakamura, Shinichi Nishimura, Toshitsugu Tabuchi, Yoko Yashiroda, Go Hirai, Akihisa Matsuyama, Minoru Yoshida	4. 巻 12
2. 論文標題 Ferrichrome, a fungal-type siderophore, confers high ammonium tolerance to fission yeast	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 17411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-22108-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mayuki Sasaki, Shinichi Nishimura, Yoko Yashiroda, Akihisa Matsuyama, Hideaki Kakeya, Minoru Yoshida*	4. 巻 25
2. 論文標題 FK506 binding protein, FKBP12, promotes serine utilization and negatively regulates threonine deaminase in fission yeast	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 iScience	6. 最初と最後の頁 105659
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.isci.2022.105659	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Majid Manzoor, Makoto Muroi, Haruna Nishimura, Danni Chen, Naoko Ogawa, Hiroki Kobayashi, Opeyemi B. Fasina, Jianyu Wang, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida, Lan Xiang, Jianhua Qi	4. 巻 13
2. 論文標題 Isoquercitrin from Apocynum venetum L. produces an anti-obesity effect on obese mice by targeting C-1-tetrahydrofolate synthase, carbonyl reductase, and glutathione S-transferase P and modification of the AMPK/SREBP-1c/FAS/CD36 signaling pathway in mice in vivo	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Food & Function	6. 最初と最後の頁 10923-10936
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/d2fo02438a	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yusuke Shiraishi, Tomohiko Maehama, Miki Nishio, Junji Otani, Hiroki Hikasa, Tak Wah Mak, Takehiko Sasaki, Teruki Honma, Yasumitsu Kondoh, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida, Masato Fujisawa, Akira Suzuki	4. 巻 27
2. 論文標題 N-(3,4-dimethoxyphenethyl)-6-methyl-2,3,4,9-tetrahydro-1H-carbazol-1-amine inhibits bladder cancer progression by suppressing YAP1/TAZ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Genes to Cells	6. 最初と最後の頁 602-612
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.12979	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shohei Takase, Takashi Hiroyama, Fumiyuki Shirai, Yuki Maemoto, Akiko Nakata, Mayumi Arata, Seiji Matsuoka, Takeshi Sonoda, Hideaki Niwa, Shin Sato, Takashi Umehara, Mikako Shirouzu, Yosuke Nishigaya, Tatsunobu Sumiya, Noriaki Hashimoto,... Minoru Yoshida, Akihiro Ito	4. 巻 14
2. 論文標題 A specific G9a inhibitor unveils BGLT3 lncRNA as a universal mediator of chemically induced fetal globin gene expression	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 NATURE COMMUNICATIONS	6. 最初と最後の頁 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-022-35404-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Haomin Yan, Tsutomu Sasaki, Hideaki Kanki, Yoshiyuki Hirata, Kumiko Nishiyama, Sunao Hisada, Shigenobu Matsumura, Yasuo Nagaoka, Takaaki Sumiyoshi, Seiichi Nagano, Akiko Nakata, Minoru Yoshida, Shinichi Uesato, Hideki Mochizuki	4. 巻 12
2. 論文標題 MDMX elevation by a novel Mdmx_p53 interaction inhibitor mitigates neuronal damage after ischemic stroke	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 21110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-25427-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Kobayashi, Shohei Takase, Hironori Harada, Minoru Yoshida	4. 巻 114
2. 論文標題 RNAi screening reveals a synthetic chemical-genetic interaction between ATP synthase and PFK1 in cancer cells	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 CANCER SCIENCE	6. 最初と最後の頁 1663-1671
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15713	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saaya Sekine, Shohei Takase, Runa Hayase, Kota Noritsugu, Yuki Maemoto, Yasue Ichikawa, Kenji Ogawa, Yasumitsu Kondoh, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida, Akihiro Ito	4. 巻 98
2. 論文標題 Identification of a derivative of the alkaloid emetine as an inhibitor of the YAP-TEAD interaction and its potential as an anticancer agent	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bioscience, biotechnology, and biochemistry	6. 最初と最後の頁 501_510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/bbb/zbad022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ashutosh Kumar, Masaki Matsuoka, Akihisa Matsuyama, Minoru Yoshida, Kam Y. J. Zhang	4. 巻 71
2. 論文標題 Identification of Fungal and Bacterial Denitrification Inhibitors Targeting Copper Nitrite Reductase	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J. Agric. Food Chem.	6. 最初と最後の頁 5172_5184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jafc.3c00896	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yosuke Nishigaya, Shohei Takase, Tatsunobu Sumiya, Ko Kikuzato, Tomohiro Sato, Hideaki Niwa, Shin Sato, Akiko Nakata, Takeshi Sonoda, Noriaki Hashimoto, Ryosuke Namie, Teruki Honma, Takashi Umehara, Mikako Shirouzu, Hiroo Koyama, Minoru Yoshida, Akihiro Ito, and Fumiyuki Shirai	4. 巻 66
2. 論文標題 Discovery of Novel Substrate-Competitive Lysine Methyltransferase G9a Inhibitors as Anticancer Agents	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J. Med. Chem.	6. 最初と最後の頁 4059_4085
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jmedchem.2c02059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okuda K, Nakahara K, Ito A, Kumar A, Nomura R, Iijima Y, Takasugi N, Adachi K, Shimada Y, Fujio S, Onuma K, Osaki M, Okada F, Ukegawa T, Takeuchi Y, Yasui N, Yamashita A, Marusawa H, Katagiri T, Shibata T, Uchida K, Nakamura T, Zhang KYZ, Lipton SA, Uehara T	4. 巻 14
2. 論文標題 Pivotal role for S-nitrosylation of DNA methyltransferase 3B in epigenetic regulation of tumorigenesis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 621
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-023-36232-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takase S, Yun YS, Moriya F, Sekine S, Yotsumoto S, Miyake K, Yahagi T, Ito A, Inoue H	4. 巻 77
2. 論文標題 17 -neriifolin from unripe fruits of Cerbera manghas suppressed cell proliferation via the inhibition of HOXA9-dependent transcription and the induction of apoptosis in the human AML cell line THP-1	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Natural Medicines	6. 最初と最後の頁 180-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11418-022-01659-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yun YS, Nakano T, Fukaya H, Hitotsuyanagi Y, Nakamura M, Umetsu M, Matsushita N, Miyake K, Fuchino H, Kawahara N, Moriya F, Ito A, Takahashi Y, Inoue H	4. 巻 27
2. 論文標題 Retusone A, a Guaiane-Type Sesquiterpene Dimer from <i>Wikstroemia retusa</i> and its Inhibitory Effects on Histone Acetyltransferase HB01 Expression	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Molecules	6. 最初と最後の頁 2909
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules27092909	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asai, Y., Hiratsuka, T., Ueda, M., Kawamura, Y., Asamizu, S., Onaka, H., Arioka, M., Nishimura, S., Yoshida, M.	4. 巻 17
2. 論文標題 Differential Biosynthesis and Roles of Two Ferrichrome-Type Siderophores, ASP2397/AS2488053 and Ferricrocin, in <i>Acremonium persicinum</i>	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ACS Chem. Biol.	6. 最初と最後の頁 207-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acscchembio.1c00867	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lihong Cheng, Hiroyuki Osada, Tianyan Xing, Minoru Yoshida, Lan Xiang and Jianhua Qi	4. 巻 9
2. 論文標題 The Insulin Receptor: A Potential Target of Amarogentin Isolated from <i>Gentiana rigescens</i> Franch That Induces Neurogenesis in PC12 Cells	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BIOMEDICINES	6. 最初と最後の頁 581
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/biomedicines9050581	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Satoshi Kamimura, Kimiko Inoue, Eiji Mizutani, Jin-Moon Kim, Hiroki Inoue, Narumi Ogonuki, Kei Miyamoto, Shunya Ihashi, Nobuhiko Itami, Teruhiko Wakayama, Akihiro Ito, Norikazu Nishino, Minoru Yoshida and Atsuo Ogura	4. 巻 105
2. 論文標題 Improved development of mouse somatic cell nuclear transfer embryos by chlamydocin analogues, class I and IIa histone deacetylase inhibitors	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BIOLOGY OF REPRODUCTION	6. 最初と最後の頁 543-553
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/biolre/iaob096	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jagat K. Chhipi-Shrestha, Tilman Schneider-Poetsch, Takehiro Suzuki, Mari Mito, Khalid Khan, Naoshi Dohmae, Shintaro Iwasaki, and Minoru Yoshida	4. 巻 29
2. 論文標題 Splicing modulators elicit global translational repression by condensate-prone proteins translated from introns.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cell Chemical Biology	6. 最初と最後の頁 259-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chembiol.2021.07.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hamid Safizadeh, Scott W. Simpkins, Justin Nelson, Sheena C. Li, Jeff S. Piotrowski, Mami Yoshimura, Yoko Yashiroda, Hiroyuki Hirano, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida, Charles Boone, and Chad L. Myers	4. 巻 61
2. 論文標題 Improving Measures of Chemical Structural Similarity Using Machine Learning on Chemical-Genetic Interactions	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of chemical information and modeling	6. 最初と最後の頁 4156-4172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jcim.0c00993	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Keisuke Tomita, Yoko Yashiroda, Yasuhiro Matsuo, Jeff S Piotrowski, Sheena C Li, Reika Okamoto, Mami Yoshimura, Hiromi Kimura, Yumi Kawamura, Makoto Kawamukai, Charles Boone, Minoru Yoshida, Hideaki Nojiri, Kazunori Okada	4. 巻 11
2. 論文標題 Genome-wide screening of genes associated with momilactone B sensitivity in the fission yeast <i>Schizosaccharomyces pombe</i>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 G3 (Bethesda)	6. 最初と最後の頁 jkab156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/g3journal/jkab156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiki Asai, Tomoshige Hiratsuka, Miyu Ueda, Yumi Kawamura, Shumpei Asamizu, Hiroyasu Onaka, Manabu Arioka, Shinichi Nishimura, and Minoru Yoshida	4. 巻 17
2. 論文標題 Differential biosynthesis and roles of two ferrichrome-type siderophores, ASP2397/AS2488053 and ferricrocin, in <i>Acremonium persicinum</i> .	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ACS Chem. Biol.	6. 最初と最後の頁 207-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acscchembio.1c00867	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Schneider-Poetsch Tilman, Chhipi-Shrestha Krishna Jag at, Yoshida Minoru	4. 巻 74
2. 論文標題 Splicing modulators: on the way from nature to clinic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JOURNAL OF ANTIBIOTICS	6. 最初と最後の頁 603_616
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41429-021-00450-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林大貴、吉田稔	4. 巻 39
2. 論文標題 機能低下したミトコンドリアを活性化させる化合物の発見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 954-957
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林大貴、吉田稔	4. 巻 3
2. 論文標題 ケミカルバイオロジーによる新たなミトコンドリア病創薬標的候補の発見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ケモテクノロジーが拓くユビキチンニューフロンティア ニュースレター	6. 最初と最後の頁 37-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimoto, R., Chhipi-Shrestha, J.K., Schneider-Poetsch, T., Furuno, M., Burroughs, A.M., Noma, S., Suzuki, H., Hayashizaki, Y., Mayeda, A., Nakagawa, S., Kaida, D., Iwasaki, S., Yoshida, M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Spliceostatin A interaction with SF3B1 limits U1 snRNP availability and causes premature cleavage and polyadenylation.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cell Chem. Biol.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chembiol.2021.03.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nielsen, A. L., Rajabi, N., Kudo, N., Lundo, K., Moreno-Yrueala, C., Baek, M., Fontenas, M., Lucidi, A., Madsen, A. S., Yoshida, M., Olsen, C. A.	4. 巻 2(2)
2. 論文標題 Mechanism-based inhibitors of SIRT2: structure-activity relationship, X-ray structures, target engagement, regulation of $\alpha$ -tubulin acetylation and inhibition of breast cancer cell migration.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RSC Chem. Biol.	6. 最初と最後の頁 612-626
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/D0CB00036A	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Kobayashi, H., Hatakeyama, H., Nishimura, H., Yokota, M., Suzuki, S., Tomabechi, Y., Shirouzu, M., Osada, H., Mimaki, M., Goto, Y., Yoshida, M.	4. 巻 17(3)
2. 論文標題 Chemical reversal of abnormalities in cells carrying mitochondrial DNA mutations.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nat. Chem. Biol.	6. 最初と最後の頁 335-343
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41589-020-00676-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Han, P., Shichino, Y., Schneider-Poetsch, T., Mito, M., Hashimoto, S., Udagawa, T., Kohno, K., Yoshida, M., Mishima, Y., Inada, T., Iwasaki, S.	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 Genome-wide survey of ribosome collision.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cell Rep.	6. 最初と最後の頁 107610
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.celrep.2020.107610	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Dileep, K.V., Sakai, N., Ihara, K., Kato-Murayama, M., Nakata, A., Ito, A., Sivaraman, D.M., Shin, J.W., Yoshida, M., Shirouzu M., Zhang, K.Y.J.	4. 巻 170
2. 論文標題 Piperidine-4-carboxamide as a new scaffold for designing secretory glutaminyl cyclase inhibitors.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int. J. Biol. Macromol.	6. 最初と最後の頁 415-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijbiomac.2020.12.118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shiroma, Y., Fujita, G., Yamamoto, T., Takahashi, R.U., Kumar, A., Zhang, K.Y.J., Ito, A., Osada, H., Yoshida, M., Tahara, H.	4. 巻 21(23)
2. 論文標題 Identification of a selective ReIA inhibitor based on DSE-FRET screening methods.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int. J. Mol. Sci.	6. 最初と最後の頁 9150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms21239150	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Radwan, M.O., Ciftci, H.I., Ali, T.F.S., Koga, R., Tateishi, H., Nakata, A., Ito, A., Yoshida, M., Fujita, M., Otsuka, M.	4. 巻 30(19)
2. 論文標題 Structure activity study of S-trityl-cysteamine dimethylaminopyridine derivatives as SIRT2 inhibitors: Improvement of SIRT2 binding and inhibition.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bioorg. Med. Chem. Lett.	6. 最初と最後の頁 127458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmcl.2020.127458	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Xiang, L., Wu, Q., Osada, H., Yoshida, M., Pan, W., Qi, J.	4. 巻 12(14)
2. 論文標題 Peanut skin extract ameliorates the symptoms of type 2 diabetes mellitus in mice by alleviating inflammation and maintaining gut microbiota homeostasis.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aging (Albany NY)	6. 最初と最後の頁 13991-14018
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18632/aging.103521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kobayashi, H., Nishimura, H., Kudo, N., Osada, H., Yoshida, M.	4. 巻 84(10)
2. 論文標題 A novel GSK3 inhibitor that promotes self-renewal in mouse embryonic stem cells.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biosci. Biotechnol. Biochem.	6. 最初と最後の頁 2113-2120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09168451.2020.1789445	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jo, T., Nishikori, M., Kogure, Y., Arima, H., Sasaki, K., Sasaki, Y., Nakagawa, T., Iwai, F., Momose, S., Shiraiishi, A., Kiyonari, H., Kagaya, N., Onuki, T., Shin-Ya, K., Yoshida, M., Kataoka, K., Ogawa, S., Iwai, K., Takaori-Kondo, A.	4. 巻 136(6)
2. 論文標題 LUBAC accelerates B-cell lymphomagenesis by conferring resistance to genotoxic stress on B cells.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Blood	6. 最初と最後の頁 684-697
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1182/blood.2019002654	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kanou, A., Nishimura, S., Tabuchi, T., Matsuyama, A., Yoshida, M., Kato, T., Takeya, H.	4. 巻 73(8)
2. 論文標題 Serine catabolism produces ROS, sensitizes cells to actin dysfunction, and suppresses cell growth in fission yeast.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J. Antibiot (Tokyo)	6. 最初と最後の頁 574-580
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41429-020-0305-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ling, F., Yoshida, M.	4. 巻 11(5)
2. 論文標題 Rolling-circle replication in mitochondrial DNA inheritance: Scientific evidence and significance from yeast to human cells.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Genes (Basel)	6. 最初と最後の頁 514
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/genes11050514	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishimura S, Matsumori N.	4. 巻 37
2. 論文標題 Chemical diversity and mode of action of natural products targeting lipids in the eukaryotic cell membrane.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nat. Prod. Rep.	6. 最初と最後の頁 677-702
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/C9NP00059C	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林大貴、吉田稔	4. 巻 39(6)
2. 論文標題 機能低下したミトコンドリアを活性化させる化合物の発見.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 954-957
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 住吉孝明、平中誠弥、出口芳春、伊藤昭博、吉田稔	4. 巻 30(1)
2. 論文標題 血液脳関門透過性を有するヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の探索.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 MEDCHEM NEWS	6. 最初と最後の頁 43-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Xiang, L., Wu, Q., Cheng, L., Sun, K., Li, J., Yoshida, M., Qi, J	4. 巻 2019
2. 論文標題 Leptin and adiponectin signaling pathways are involved in the antiobesity effects of peanut skin extract.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Oxid. Med. Cell. Longev.	6. 最初と最後の頁 2935315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2019/2935315. eCollection.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yashiroda, Y., Yoshida, M.	4. 巻 19(7)
2. 論文標題 Intraspecies cell-cell communication in yeast.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 FEMS Yeast Res.	6. 最初と最後の頁 pii: foz071
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/femsyr/foz071.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Radwan, M.O., Ciftci, H.I., Ali, T.F.S., Ellakwa, D.E., Koga, R., Tateishi, H., Nakata, A., Ito, A., Yoshida, M., Okamoto, Y., Fujita, M., Otsuka, M.	4. 巻 24(18)
2. 論文標題 Antiproliferative S-trityl-L-cysteine-derived compounds as SIRT2 inhibitors: Repurposing and solubility enhancement.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Molecules	6. 最初と最後の頁 pii: E3295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules24183295.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takase, S., Kurokawa, R., Kondoh, Y., Honda, K., Suzuki, T., Kawahara, T., Ikeda, .H, Dohmae, N., Osada, H., Shin-Ya, K., Kushiro, T., Yoshida, M., Matsumoto, K.	4. 巻 14(8)
2. 論文標題 Mechanism of action of prethioviridamide, an anticancer ribosomally synthesized and post-translationally modified peptide with a polythioamide structure.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ACS Chem. Biol.	6. 最初と最後の頁 1819-1828
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acscchembio.9b00410.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mitsui, E., Yoshida, S., Shinoda, Y., Matsumori, Y., Tsujii, H., Tsuchida, M., Wada, S., Hasegawa, M., Ito, A., Mino, K., Onuki, T., Yoshida, M., Sasaki, R., Mizukami, T.	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 Identification of ryuvidine as a KDM5A inhibitor.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sci. Rep.	6. 最初と最後の頁 9952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-46346-x.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kashiwazaki, J., Yoneda, Y., Mutoh, T., Arai, R., Yoshida, M., Mabuchi, I.	4. 巻 76(5)
2. 論文標題 A unique kinesin-like protein, Klp8, is involved in mitosis and cell morphology through microtubule stabilization.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cytoskeleton (Hoboken)	6. 最初と最後の頁 355-367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cm.21551.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高瀬翔平、伊藤昭博、吉田稔	4. 巻 271(1)
2. 論文標題 阻害剤によるヒストンアセチル化の調節	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計132件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 27件)

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 ヒストンメチル化のケミカルバイオロジーと創薬
3. 学会等名 日本ケミカルバイオロジー学会・産学連携委員会 定例会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八代田陽子、木村寛美、吉村麻美、臼井正哉、丹羽節、高橋一光、俣賀宣子、細谷孝充、イリエシュ ラウレアン、吉田稔、ブーン チャールズ
2. 発表標題 Ergosterol 生合成経路を標的とする新規阻害剤の作用機序解明
3. 学会等名 日本ケミカルバイオロジー学会 第16回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荻野菜々美、伊賀上祥汰、増田遼馬、室井誠、長田裕之、松本健、吉田稔、喜井勲、大神田淳子
2. 発表標題 抗がん活性フシコクシン誘導体はmRNA翻訳抑制複合体を安定化する
3. 学会等名 日本ケミカルバイオロジー学会 第16回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤昭博、高瀬翔平、寛山隆、白井文幸、西ヶ谷洋輔、角谷龍展、中田明子、園田健、丹羽英明、梅原崇史、中村幸夫、吉田稔
2. 発表標題 鎌状赤血球症治療薬創製を目指したヒストンメチル化酵素 G9a 阻害剤の開発
3. 学会等名 日本ケミカルバイオロジー学会 第16回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高瀬 翔平、大石 智一、大庭 俊一、川田 学、吉田 稔、伊藤 昭博
2. 発表標題 ヒストンメチル化酵素 G9a 阻害剤 RK-701 による白血病細胞の増殖抑制機構 .
3. 学会等名 第26回がん分子標的治療学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本 健、堂前 直、吉田 稔
2. 発表標題 eIF5A ハイブシン化阻害剤 GC7 による細胞増殖抑制の標的経路の解析
3. 学会等名 第26回がん分子標的治療学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 則次 恒太、堂前 直、吉田 稔、伊藤 昭博
2. 発表標題 リジン長鎖アシル化修飾による転写因子 TEAD の機能制御機構の解析
3. 学会等名 第26回がん分子標的治療学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 関根 咲彩、高瀬 翔平、則次 恒太、松本 健、長田 裕之、吉田 稔、伊藤 昭博
2. 発表標題 YAP-TEAD 間相互作用を標的とした Hippo 経路阻害剤の開発
3. 学会等名 第26回がん分子標的治療学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jagat K. Chhipi-Shrestha, Tilman Schneider-Poetsch, Takehiro Suzuki, Mari Mito, Khalid Khan, Naoshi Dohmae, Shintaro Iwasaki and Minoru Yoshida
2. 発表標題 Proteins from translated introns repress global protein synthesis
3. 学会等名 第23回日本RNA学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Saito Hironori, Chen Mingming, Schneider-Poetsch Tilman, Shichino Yuichi, Romo Daniel, F_rstner Alois, Yoshida Minoru, Iwasaki Shintaro
2. 発表標題 Pateamine A mediates selective translational repression by anchoring eIF4A to GNG motifs
3. 学会等名 第23回日本RNA学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sheena Li, Lien Pham, Luis Alberto Vega Isuhuaylas, Yoko Yashiroda, Mami Yoshimura, Hiromi Kimura, Yumi Kawamura, Minoru Yoshida, and Charles Boone
2. 発表標題 Identifying the targets of novel compounds using high throughput chemical-genomics in yeast and human cells
3. 学会等名 Yeast Genetics Meeting 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Saito Hironori, Chen Mingming, Schneider-Poetsch Tilman, Shichino Yuichi, Romo Daniel, F_rstner Alois, Yoshida Minoru, Iwasaki Shintaro
2. 発表標題 Pateamine A mediates selective translational repression by anchoring eIF4A to GNG motifs
3. 学会等名 Cold spring harbor Translational Control 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Lien Pham, Yuichi Shichino, Sheena Li, Yoko Yashiroda, Mami Yoshimura, Hiromi Kimura, Yumi Kawamura, Luis Alberto Vega Ispuaylas, Norio Kudo, Minoru Yoshida, Shintaro Iwasaki, and Charles Boone
2. 発表標題 Identifying the targets of novel compounds using high throughput chemical-genomics screening
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八代田陽子, 木村寛美, 吉村麻美, 野口峻太郎, Sheena Li, Luis A. Vega I., 河村優美, 吉田 稔, 酒井隆一, Charles Boone
2. 発表標題 S. pombeケミカルゲノミクス法を用いた海産環状グアニジンアルカロイド化合物の作用機序解明
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 星川陽次郎, 西村慎一, 松山晃久, Sheena Li, 八代田陽子, Charles Boone, 津川裕司, 有田 誠, 吉田 稔
2. 発表標題 奇数鎖脂肪酸による分裂酵母の小胞体の異常形態と膜リン脂質組成の攪乱
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西村慎一、Po-Chang Chiu、中村優里、田淵稔二、八代田陽子、平井 剛、松山晃久、吉田 稔
2. 発表標題 フェリクロームは高アンモニウム条件下において分裂酵母の適応生育を誘導する
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉住僚太郎、西村慎一、八代田陽子、松山晃久、吉田 稔
2. 発表標題 分裂酵母の細胞間コミュニケーション分子の組織的探索
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中尾拳典、西村慎一、菅長昭文、松山晃久、吉田 稔
2. 発表標題 ステロール標的型天然物セオネラミドが示す細胞壁異常の制御因子の解析
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Huanlin Li, Yoko Yashiroda, Go Hirai, Masaya Usui, Nobuko Mataga, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Identification of enzymes involved in the biosynthesis of Nitrogen Signaling Factors (NSFs) in <i>Schizosaccharomyces pombe</i>
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第55回研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ito Takashi, Nishimura Haruna, Nurmila Sari, Kobayashi Hiroki, Yoshida Minoru
2. 発表標題 Lacate inhibits glycolysis and attenuates mitochondrial disease
3. 学会等名 Cell Symposia: Multifaceted Mitochondria (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 化学遺伝学による遺伝病の治療標的分子同定と新規治療法の開発
3. 学会等名 第96回日本薬理学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本 健、黒川留美、Tilman Schneider-Poetsch、高瀬 恵、鈴木健裕、堂前 直、吉田 稔
2. 発表標題 eIF5Aハイプシン化阻害剤GC7はミトコンドリアストレスを誘導する
3. 学会等名 第45回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wenjuan ZHU, Minoru YOSHIDA, Feng LING
2. 発表標題 Attenuated replication advantage of hypersuppressive mitochondrial DNA by glucose deprivation in budding yeast
3. 学会等名 第45回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Feng LING, Wenjuan ZHU, Matsumoto Ken, Minoru YOSHIDA,
2. 発表標題 The sustainment of chronological lifespan by mitochondrial homologous DNA pairing-promoting protein Mhr1 in budding yeast
3. 学会等名 第45回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Feng LING, Wenjuan ZHU, Matsumoto Ken, Minoru YOSHIDA,
2. 発表標題 The sustainment of chronological lifespan by mitochondrial homologous DNA pairing-promoting protein Mhr1 in budding yeast
3. 学会等名 第45回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuki SASAKI, Takeshi SONODA, Minoru YOSHIDA
2. 発表標題 Live-cell imaging of the interaction between nucleosomal histone H3K9 tri-methylation and the HP1 chromodomain
3. 学会等名 第45回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木 和樹 園田 健 吉田 稔
2. 発表標題 生細胞でのHP1 クロモドメインとトリメチル化ヒストンH3K9の結合状態の可視化検出
3. 学会等名 第45回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 Identification of a quality control system to cope with aberrant proteins produced by mis-splicing
3. 学会等名 The international symposium in Tokyo 2022 Ubiquitin New Frontier ~from Neo-Biology to Targeted Protein Degradation (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kenji Ogawa, Yasue Ichikawa, Akiko Idei, and Minoru Yoshida
2. 発表標題 Development of Protease Sensor, a novel assay for measuring intracellular DUB activity
3. 学会等名 The international symposium in Tokyo 2022 Ubiquitin New Frontier ~from Neo-Biology to Targeted Protein Degradation~ (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Saito Hironori, Chen Mingming, Schneider-Poetsch Tilman, Shichino Yuichi, Romo Daniel, F_rstner Alois, Yoshida Minoru, Iwasaki Shintaro
2. 発表標題 Pateamine A mediates selective translational repression by anchoring eIF4A to GNG motifs
3. 学会等名 Cold spring harbor Asia (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本健、黒川留美、Tilman Schneider-Poetsch1、高瀬恵、鈴木健裕、堂前直、吉田稔
2. 発表標題 eIF5A ハイプシン化の阻害剤 GC7 はミトコンドリアストレスを誘導する
3. 学会等名 日本ポリアミン学会第13回年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 ケミカルゲノミクスを基盤とした創薬研究
3. 学会等名 2022年度【先端モデル動物支援プラットフォーム】成果発表会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本健、吉田稔
2. 発表標題 動物培養細胞でのshRNAスクリーニングによる分子探索
3. 学会等名 2022年度【先端モデル動物支援プラットフォーム】成果発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 微生物に学ぶ新たな創薬標的研究
3. 学会等名 化学・材料インキュベーション研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 Tackling Genetic Diseases with Chemical Biology
3. 学会等名 Future Drug Discovery（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KANRIN RI, Yoko Yashiroda, Go Hirai, Masaya Usui, Nobuko Mataga, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Screening for genes involved in the biosynthesis of Nitrogen Signaling Factors (NSFs) in Schizosaccharomyces pombe
3. 学会等名 日本農芸化学会2023年度大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松山 晃久, 橋本 敦史, 西村 慎一, 吉田 稔
2. 発表標題 分裂酵母の新規染色体挿入型ベクターの開発 Development of new host-vector systems enabling chromosomal integration of transgenes in fission yeast
3. 学会等名 日本農芸化学会2023年度大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Fereshteh AZADEH, Akihisa Matsuyama, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Establishment of NanoBiT-based using two probes for one target in fission yeast
3. 学会等名 日本農芸化学会2023年度大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本 健、黒川 留美、Schneider-Poetsch Tilman、高瀬 恵、鈴木 健裕、堂前 直、吉田 稔
2. 発表標題 eIF5Aハイプシン化阻害剤によるミトコンドリアタンパク質の減少
3. 学会等名 日本薬学会143年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋本 公佑、新 真由美、中田 明子、伊藤 孝、伊藤 昭博、工藤 紀雄、吉田 稔、田中 克典、長岡 康夫、住吉 孝明
2. 発表標題 金触媒アミド化反応を用いた標的組織内構築志向型HDAC阻害剤プロドラッグの探索
3. 学会等名 日本薬学会143年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 懸樋 涼、小林 大貴、西村 はる菜、吉田 稔、矢島 辰雄、長岡 康夫、住吉 孝明
2. 発表標題 ホスホフルクトキナーゼ-1阻害剤トリプトリナミドの立体異性体の合成と構造活性相関
3. 学会等名 日本薬学会143年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 荻野 菜々美、室井 誠、長田 裕之、松本 健、吉田 稔、喜井 勲、大神田 淳子
2. 発表標題 14-3-3たんぱく質間相互作用の安定化によるmRNA翻訳機構の解明
3. 学会等名 日本化学会年会第103春季年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota Noritsugu, Takehiro Suzuki, Yasue Ichikawa, Kenji Ohgane, Naoshi Dohmae, Minoru Yoshida, Akihiro Ito
2. 発表標題 Lysine long-chain fatty acylation regulates the TEAD transcription factor in Hippo signaling pathway
3. 学会等名 ChemBioNara2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田萌羽、前本佑樹、青木元秀、宇山徹、梅村知也、上田夏生、吉田稔、伊藤昭博
2. 発表標題 N-アシルドーパミン合成酵素の発見
3. 学会等名 第45回分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 則次恒太、玉田南、鈴木健裕、堂前直、伊藤昭博
2. 発表標題 システインパルミトイル化によるリジン脱アセチル化酵素SIRT1の活性制御
3. 学会等名 第45回分子生物学会年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 関根咲彩、高瀬翔平、則次恒太、黒川留美、市川保恵、小川健司、松本健、長田裕之、吉田稔、伊藤昭博
2. 発表標題 Hippo経路におけるYAP-TEAD間相互作用を標的とした阻害剤探索研究
3. 学会等名 第95回 日本生化学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木健裕、則次恒太、伊藤昭博、堂前直
2. 発表標題 転写因子TEADの新規翻訳後修飾リジン長鎖アシル化
3. 学会等名 日本プロテオーム学会2022年大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前本佑樹、前田萌羽、青木元秀、宇山徹、梅村知也、上田夏生、吉田稔、伊藤昭博
2. 発表標題 新規ドーパミンアシル基転移酵素の同定
3. 学会等名 第64回日本脂質生化学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 則次 恒太、堂前 直、吉田 稔、伊藤 昭博
2. 発表標題 転写因子 TEAD の転写活性を制御する新規翻訳後修飾リジン長鎖アシル化の解析
3. 学会等名 第25回日本がん分子標的治療学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星川陽次郎、西村慎一、松山晃久、Sheena Li、八代田陽子、Charles Boone、津川裕司、有田誠、吉田稔
2. 発表標題 奇数鎖脂肪酸による分裂酵母の脂質代謝攪乱と細胞分裂阻害
3. 学会等名 第63回 日本脂質生化学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高瀬翔平、関根咲彩、林瀬瑠奈、則次恒太、市川保恵、近藤恭光、小川健司、長田裕之、吉田稔、伊藤昭博
2. 発表標題 YAP-TEAD分子間相互作用を標的とした阻害剤スクリーニング
3. 学会等名 日本ケミカルバイオロジー学会 第15回年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 凌楓
2. 発表標題 ミトコンドリアDNA遺伝の新機構と応用の可能性
3. 学会等名 令和3年度第二回名古屋産学官・医連携研究会（名古屋連携研究会：NJK）プログラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木舞雪、西村慎一、松山晃久、八代田陽子、掛谷秀昭、吉田稔
2. 発表標題 分裂酵母におけるセリン代謝制御機構の化学遺伝学的解析
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第54回研究報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田稔、西村慎一、八代田陽子
2. 発表標題 分裂酵母の分泌型シグナル分子を使った細胞間コミュニケーション
3. 学会等名 第23回酵母合同シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akihiro Ito
2. 発表標題 Function and regulation of novel lysine acyl modifications
3. 学会等名 The Kick-off Symposium of Core-to-Core International Collaboration（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 生理活性天然物が教えてくれた真核生物の新しい遺伝子発現制御機構
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年 度西日本・中四国・関西支部 合同大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本健、黒川留美、吉田稔
2. 発表標題 eIF5Aハイブシン化阻害剤GC7によるミトコンドリアタンパク質への影響
3. 学会等名 第94回日本生化学会大会シンポジウム 神秘の生命物質ポリアミンから探る生命現象と健康への応用
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 懸樋 涼、小林 大貴、西村 はる菜、吉田 稔、長岡 康夫、住吉 孝明
2. 発表標題 ホスホフルクトキナーゼ-1阻害剤トリプトリナミドの立体異性体の合成と構造活性相関
3. 学会等名 日本薬学会第142年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 関根咲彩、高瀬翔平、林瀬瑠奈、則次恒太、黒川留美、市川保恵、近藤恭光、小川健司、松本健、長田裕之、吉田稔、伊藤昭博
2. 発表標題 YAP-TEADの分子間相互作用を標的とした阻害剤探索
3. 学会等名 日本薬学会第142年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉住僚太郎、三浦俊一、西村慎一、八代田陽子、松山晃久、吉田稔
2. 発表標題 分裂酵母の適応生育をうながすフェロモン様分子の組織的探索
3. 学会等名 日本農芸化学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木舞雪、西村慎一、松山晃久、八代田陽子、掛谷秀昭、吉田稔
2. 発表標題 FKBP12によるセリン・スレオニン代謝制御の化学遺伝学的解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 星川陽次郎、西村慎一、松山晃久、リ・シーナ、八代田陽子、ブーン・チャールズ、津川裕司、有田誠、吉田稔
2. 発表標題 奇数鎖脂肪酸による分裂酵母の脂質組成の攪乱および小胞体の形態異常.
3. 学会等名 日本農芸化学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村優里、西村慎一、平塚知成、松山晃久、吉田稔
2. 発表標題 分裂酵母における細胞外代謝物による鉄飢餓の克服
3. 学会等名 日本農芸化学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 萌羽、前本 佑樹、青木 元秀、梅村 知也、吉田 稔、伊藤 昭博
2. 発表標題 新規N-アシルドーパミン合成酵素の発見
3. 学会等名 日本農芸化学会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木和樹、鈴木律裕、中尾 洋一、吉田 稔
2. 発表標題 HP1 クロモドメインを用いたFRET型蛍光プローブによる細胞分裂中のヒストン修飾動態の観察
3. 学会等名 第14回日本エピジェネティクス研究会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田稔
2. 発表標題 天然物化学ゲノミクスによる真核生物セントラルドグマの制御機構解析
3. 学会等名 第14回日本エピジェネティクス研究会年会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤昭博
2. 発表標題 リジン長鎖アシル化修飾の新規機能
3. 学会等名 日本薬学会第141年会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木和樹、鈴木律裕、中尾 洋一、吉田 稔
2. 発表標題 細胞分裂過程におけるHP1 クロモドメインとヒストンH3の結合状態の経時観察
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾拳典、菅長昭文、西村慎一、松山晃久、吉田稔
2. 発表標題 ステロール標的型天然物を用いた細胞極性とステロールの関係性の探索
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅井良樹、西村慎一、平塚知成、河村優美、吉田稔
2. 発表標題 糸状菌Acremonium persicinumが産生する抗真菌化合物ASP2397の生合成遺伝子の同定とシデロフォア機能の解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星川陽次郎、西村慎一、松山 晃久、Li Sheena、八代田 陽子、Boone Charles、吉田 稔
2. 発表標題 奇数鎖脂肪酸は分裂酵母において細胞膜極性と細胞分裂に異常を引き起こす
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本莉央、八代田陽子、大澤晋、平井剛、森山裕充、吉田 稔
2. 発表標題 分裂酵母のオキシリピンを介した窒素代謝に関わる細胞間コミュニケーションの解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田淵稔二、西村慎一、松山 晃久、吉田 稔
2. 発表標題 分裂酵母における窒素源としてのアミノ酸選択機構の解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤孝、小林大貴、吉田稔
2. 発表標題 mTOR経路阻害でリー脳症モデルNdufs4 KOマウス寿命を延長する分子機構
3. 学会等名 J-mit 特別 オンラインシンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林大貴、畠山英之、伊藤孝、西村はる菜、横田睦美、鈴木禎史、苫米地由里、白水美香子、長田裕之、三牧正和、後藤雄一、吉田稔
2. 発表標題 機能低下したミトコンドリアを活性化させる化合物の発見とその応用
3. 学会等名 J-mit 特別 オンラインシンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤昭博
2. 発表標題 ケミカルバイオロジー研究から見出されたリジンアシル化修飾研究の新展開
3. 学会等名 発生工学研究センターセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星川陽次郎、西村慎一、松山晃久、Sheena Li、八代田陽子、Charles Boone、吉田稔
2. 発表標題 奇数鎖脂肪酸は分裂酵母において細胞分裂異常を引き起こす
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ling Feng, Yoshida Minoru
2. 発表標題 A new paradigm of eukaryotic mitochondrial genetic inheritance revealed from studies on yeast mitochondrial DNA replication
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Chhipi Shrestha Jagat Krishna, Schneider-Poetsch Tilman, Suzuki Takehiro, Mito Mari, Khan Khalid, Dohmae Naoshi, Iwasaki Shintaro, Yoshida Minoru
2. 発表標題 Splicing modulators elicit global translational repression by condensate-prone proteins translated from introns
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村慎一
2. 発表標題 生体膜を標的にする抗真菌化合物の探索と作用機序に関する研究
3. 学会等名 メディカルサイエンスセミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 Discovery of a small molecule that rescues phenotypes of cells carrying disease- related mitochondrial DNA mutations by inducing metabolic redirection
3. 学会等名 Target 2035   a probe for every protein   Kick-off webinar series（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木 舞、西村慎一、松山晃久、八代田陽子、掛谷秀昭、吉田稔
2. 発表標題 分裂酵母Schizosaccharomyces pombeにおけるセリン代謝制御機構の化学遺伝学的解析
3. 学会等名 第20回東京大学生命科学シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星川 陽次郎、西村慎一、松山晃久、Sheena Li、八代田陽子、Charles Boone、吉田稔
2. 発表標題 奇数鎖脂肪酸は分裂酵母において細胞分裂異常を引き起こす
3. 学会等名 第20回東京大学生命科学シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村 優里、西村慎一、松山晃久、吉田稔
2. 発表標題 分裂酵母の細胞間コミュニケーションにおけるシデロフォアの機能解析
3. 学会等名 第20回東京大学生命科学シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高瀬翔平、長田裕之、吉田稔、伊藤昭博、
2. 発表標題 Hippo経路におけるYAP-TEAD相互作用を標的とした阻害剤探索
3. 学会等名 第24回日本がん分子標的治療学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高瀬翔平、高橋未帆、園田健、菊地正樹、近藤恭光、梅原崇史、長田裕之、吉田稔、伊藤昭博
2. 発表標題 エピジェネティクスリーダータンパク質GAS41の阻害剤探索
3. 学会等名 第93回日本生化学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村慎一
2. 発表標題 細胞膜ステロールを標的にする抗真菌化合物が引き起こす細胞壁異常の分子機構解析
3. 学会等名 第93回日本生化学会大会 シンポジウム「代謝物再興:生命機能におけるエピゲノムとダイナミズムの制御因子」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八代田陽子、Lien Pham、Sheena Li、Urvi Bhojoo、吉村麻美、木村寛美、河村優美、長田裕之、松本健、吉田稔、Jason Moffat、Charles Boone
2. 発表標題 化合物の標的分子同定のためのケミカルゲノミクス基盤の確立
3. 学会等名 新学術領域研究「化学コミュニケーションのフロンティア」第7回公開シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 此木敬一、角替俊輔、八代田陽子、松本健、Katherine Chan、Amy Hin Yan Tong、Kamaldeep Kaur Aulakh、Andrea Habsaid、山下まり、Jason Moffat、Charles Boone、吉田稔、村田道雄
2. 発表標題 マイトトキシンの標的分子探索
3. 学会等名 新学術領域研究「化学コミュニケーションのフロンティア」第7回公開シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星川陽次郎、西村慎一、松山晃久、Sheena Li、八代田陽子、Charles Boone、吉田稔
2. 発表標題 炭素鎖長15の脂肪酸とそのモノアシルグリセロールは分裂酵母の細胞分裂異常を引き起こす
3. 学会等名 第62回日本脂質生化学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤昭博
2. 発表標題 リジン長鎖アシル化修飾による転写制御
3. 学会等名 日本薬学会第140年会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本 健、黒川 留美、Tariq Mohammad、Schneider-Poetsch Tilman、凌 楓、室井 誠、鈴木 健裕、堂前 直、伊藤 昭博、長田 裕之、吉田 稔
2. 発表標題 ハイブシン化阻害剤GC7のミトコンドリアへの影響
3. 学会等名 日本薬学会第140年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木 和樹、鈴木 律裕、中尾 洋一、吉田 稔
2. 発表標題 HP1 クロモドメインを用いた蛍光プローブによる細胞分裂中のクロマチン動態観察
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高瀬 翔平、林瀬 瑠奈、則次 恒太、市川 保恵、小川 健司、吉田 稔、伊藤 昭博
2. 発表標題 TEAD-YAP相互作用を標的とした化合物の探索
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋 匠、近藤 直子、白井 温子、ヒルバート マグバンタイ、松山 晃久、吉田 稔
2. 発表標題 翻訳因子 eIF5Aによる酵母の代謝調節機能の研究
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大澤 晋、八代田 陽子、吉田 稔
2. 発表標題 PAF複合体-SAGA複合体を介した窒素カタボライト抑制制御機構の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三浦 俊一、八代田 陽子、西村 慎一、松山 晃久、吉田 稔
2. 発表標題 分裂酵母における栄養源感受性変異株の探索と解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本 莉央、八代田 陽子、大澤 晋、平井 剛、森山 裕充、吉田 稔
2. 発表標題 分裂酵母の窒素シグナリング因子を介した細胞間コミュニケーションにおける受容機構の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fereshteh AZADEH, Akihisa MATSUYAMA, Minoru YOSHIDA
2. 発表標題 Establishment of a NanoBiT-based two- and three- hybrid system in fission yeast
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大澤 晋、八代田 陽子、吉田 稔
2. 発表標題 PAF複合体-SAGA複合体を介した窒素カタボライト抑制制御機構の解明
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 天然物ケミカルバイオロジーによる新しい遺伝子発現制御機構の発見
3. 学会等名 日本農芸化学会四国支部第56回講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本 健、黒川 留美、凌 楓、鈴木 健裕、堂前 直、吉田 稔
2. 発表標題 eIF5Aハイブシン化阻害剤GC7によるミトコンドリア制御
3. 学会等名 日本ポリアミン学会 第11回年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 Opening new avenues of chemical biology by bioactive natural products
3. 学会等名 The 6th CSRS-ITbM Joint Workshop
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八代田陽子、吉村麻美、野口峻太郎、Sheena Li、木村寛美、河村優美、吉田稔、酒井隆一、Charles Boone
2. 発表標題 酵母ケミカルゲノミクス法を用いた化合物の標的同定
3. 学会等名 「化学コミュニケーションのフロンティア」第6回公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 A novel translational buffering system that links splicing and cancer
3. 学会等名 第42回日本分子生物学会年会 Symposium on " Crossroad of Chemical and RNA Biology "
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本 健、黒川 留美、Tariq Mohammad、Schneider-Poetsch Tilman、凌 楓、室井 誠、鈴木 健裕、堂前 直、伊藤 昭博、長田 裕之、吉田 稔
2. 発表標題 eIF5Aハイブシン化阻害剤GC7によるミトコンドリアタンパク質の減少
3. 学会等名 第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鷲塚 健一、白井 文幸、八代田 陽子、幸 瞳、丹羽 英明、佐藤 心、安倍 昌子、大貫 哲男、眞崎 唯、平間 千津子、深見 竹広、本間 光貴、梅原 崇史、白水 美香子、吉田 喜香、水谷 アンナ、村松 由紀子、清宮 啓之、吉田 稔、小山 裕雄
2. 発表標題 タンキラーゼ阻害剤の創薬研究(3)：新規ジヒドロキナゾリノン誘導体の創出
3. 学会等名 第37回メディシナルケミストリーシンポジウム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井 文幸、水谷 アンナ、八代田 陽子、津村 武史、狩野 ゆうこ、近田 翼、村松 由紀子、幸 瞳、丹羽 英明、佐藤 心、鷲塚 健一、甲田 泰子、眞崎 唯、張 明奎、永森 晶子、奥江 雅之、渡邊 尚志、北村 弘一、設楽 永紀、本間 光貴、梅原 崇史、白水 美香子、深見 竹広、清宮 啓之、吉田 稔、小山 裕雄
2. 発表標題 タンキラーゼ阻害剤の創薬研究(2) : 経口投与で抗腫瘍効果を示すスピロインドリノン誘導体RK582 の創製
3. 学会等名 第37回メディシナルケミストリーシンポジウム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 甲田 泰子、白井 文幸、水谷 アンナ、八代田 陽子、津村 武史、狩野 ゆうこ、近田 翼、村松 由紀子、幸 瞳、丹羽 英明、佐藤 心、吉田 喜香、眞崎 唯、鷲塚 健一、奥江 雅之、渡邊 尚志、北村 弘一、設楽 永紀、本間 光貴、梅原 崇史、白水 美香子、深見 竹広、清宮 啓之、吉田 稔、小山 裕雄
2. 発表標題 タンキラーゼ阻害剤の創薬研究(1) : 細胞増殖阻害活性改善を指向した誘導体合成
3. 学会等名 第37回メディシナルケミストリーシンポジウム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Ohsawa
2. 発表標題 Chemical and genetic regulation of nitrogen catabolite repression in the fission yeast <i>Schizosaccharomyces pombe</i>
3. 学会等名 第4回A3 Young Scientist & Young PI Meeting (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石倉菜摘、前本佑樹、青木元秀、橘高敦史、上杉志成、吉田稔、伊藤昭博
2. 発表標題 内因性脂質代謝物N-アシルドーパミンによるHIF-1 活性化機構
3. 学会等名 第24回化学生物学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅井良樹, 西村慎一, 平塚知成, 河村優美, 吉田稔
2. 発表標題 糸状菌Acremonium persicinumにおけるシデロフォア型抗真菌化合物ASP2397の生産機構の解析
3. 学会等名 第19回 糸状菌分子生物学コンファレンス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 Opening new drug discovery frontiers through natural products chemical genetics
3. 学会等名 8th annual conference of International Chemical Biology Society (ICBS-2019) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ken Matsumoto, Shohei Takase, Rumi Kurokawa, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Target pathway identification of bioactive compounds by multifaceted approaches
3. 学会等名 2019 Cold Spring Harbor Asia Conference on Chemical Biology and Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuki Sasaki, Michihiro Suzuki, Akihiro Ito, Yoichi Nakao, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Development of fluorescent probes for visualizing an interaction between intra-nucleosomal histone H3 K9 tri-methylation and HP1 chromodomain and live-cell imaging
3. 学会等名 2019 Cold Spring Harbor Asia Conference on Chemical Biology and Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shin Ohsawa, Yoko Yahiroda, Minoru Yohida
2. 発表標題 Chemical and genetic regulation of nitrogen catabolite repression by PAF complex in the fission yeast <i>Schizosaccharomyces</i>
3. 学会等名 2019 Cold Spring Harbor Asia Conference on Chemical Biology and Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akihisa Matsuyama, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Development of NanoBiT-based 2- and 3-hybrid system in fission yeast
3. 学会等名 2019 Cold Spring Harbor Asia Conference on Chemical Biology and Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinichi Nishimura, Akifumi Suganaga, Akihisa Matsuyama, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Comprehensive analysis of the mechanism of action of theonellamides, marine-derived antifungals, based on fission yeast ORFeome
3. 学会等名 2019 Cold Spring Harbor Asia Conference on Chemical Biology and Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Kobayashi, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Identification of a novel compound that alters energy metabolism
3. 学会等名 2019 Cold Spring Harbor Asia Conference on Chemical Biology and Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 Mechanism of action of anticancer splicing modulators- Translational buffering linking splicing and cancer
3. 学会等名 2019 Cold Spring Harbor Asia Conference on Chemical Biology and Drug Discovery (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tilman Schneider-Poetsch, Jagat Shrestha, Shintaro Iwasaki, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Translation factor eIF5A connects protein synthesis and energy metabolism
3. 学会等名 The 10th Korea-Japan Chemical Biology Symposium and 30th Meeting for New Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroki Kobayashi, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida
2. 発表標題 A novel compound that alters energy metabolism
3. 学会等名 The 10th Korea-Japan Chemical Biology Symposium and 30th Meeting for New Drug Discovery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林大貴、長田 裕之、吉田 稔
2. 発表標題 ワールブルグ効果制御物質の発見
3. 学会等名 第78回日本癌学会学術総会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 Translational buffering linking splicing and cancer
3. 学会等名 RIKEN-Max Planck Joint Research Center for Systems Chemical Biology The 7th Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Yashiroda, Sheena Li, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida, Chad Myers, Charles Boone
2. 発表標題 Target identification using a yeast chemical genomic approach
3. 学会等名 酵母遺伝学フォーラム第52回研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoko Yashiroda, Sheena Li, Urvi Bhojoo, Mami Yoshimura, Hamid Safizadeh, Scott Simpkins, Justin Nelson, Hiromi Kimura, Yumi Kawamura, Hiroyuki Hirano, Hiroyuki Osada, Minoru Yoshida, Chad Myers and Charles Boone
2. 発表標題 Yeast Chemical Genomic Approach for Target Identification.
3. 学会等名 The 29th International Conference on Yeast Genetics and Molecular Biology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Norio Kudo, Akihiro Ito, Mayumi Arata, Akiko Nakata, Seiji Matsuoka, Daria Monaldi, Manfred Jung, Minoru Yoshida
2. 発表標題 Conversion of SIRT2 catalytic activity from deacetylase to defatty-acylase by fatty-acyl substrates
3. 学会等名 FASEB Conference on The Reversible Protein Acetylation in Health and Disease (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minoru Yoshida
2. 発表標題 Fatty acyl metabolites as intrinsic inhibitors of SIRT2 deacetylase
3. 学会等名 FASEB Conference on The Reversible Protein Acetylation in Health and Disease (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田 稔
2. 発表標題 分裂酵母同士も「化合物」を使ってコミュニケーションする
3. 学会等名 微生物ウイーク2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishimura, S., Suganaga, A., Matsuyama, A Yoshida, M
2. 発表標題 Chemical genetic analysis of sterol-regulated proteins using fission yeast ORFeome
3. 学会等名 10th International Fission Yeast Meeting (Pombe meeting 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ohsawa, S., Yashiroda, Y., Yoshida, M.
2. 発表標題 PAF complex regulates the cancelation of nitrogen catabolite repression
3. 学会等名 10th International Fission Yeast Meeting (Pombe meeting 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村 慎一、菅長 昭文、松山 晃久、吉田 稔
2. 発表標題 ステロールの機能変調により局在変化を受ける分裂酵母タンパク質の網羅的探索
3. 学会等名 第61回 日本脂質生化学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>鉄をめぐる真菌の新しい生存戦略の発見 -糸状菌による2種のフェリクローム型シデロフォアの使い分け  <a href="https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics_20220112-1.html">https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics_20220112-1.html</a>          イントロン由来の異常タンパク質が与えるストレス - スプライシング調節化合物による抗がんメカニズムを解明  <a href="https://www.riken.jp/press/2021/20210914_1/index.html">https://www.riken.jp/press/2021/20210914_1/index.html</a>          スプライシング調節化合物がもたらす新たな作用を発見  <a href="https://www.riken.jp/press/2021/20210330_1/index.html">https://www.riken.jp/press/2021/20210330_1/index.html</a>          リボソームの交通渋滞を見つける方法 - ダイソームプロファイリング法による網羅的探索 -  <a href="https://www.riken.jp/press/2020/20200506_1/index.html">https://www.riken.jp/press/2020/20200506_1/index.html</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西村 慎一  (Nishimura Shinichi)  (30415260)	広島大学・統合生命科学研究科(生)・教授   (15401)	
研究分担者	伊藤 昭博  (Ito Akihiro)  (40391859)	東京薬科大学・生命科学部・教授   (32659)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------